

インドネシア初の地下鉄開業

オールジャパンで事業推進

日本の円借款を活用し整備していたインドネシア初の地下鉄「ジャカルタ都市高速鉄道（MRT南北線）」の開業式典が24日、現地で行われた。ジョコ・ウィド

大統領をはじめ、同国の関係閣僚やMRT運営会社の幹部らが出席。日本側からは石井正文駐インドネシア大使、国土交通省の篠原康弘国土交通審議官、国際協力機構（JICA）の田中寧理事のほか、建設工事業を祝った。

高い技術力とノウハウを持つ日本企業が事業を推進してきた。施工監理はオリエンタルコンサルタンツグループ、パシフィックコンサルタンツ、日本コンサルタンツらが担当。土木工事は清水建設、大林組、三井住友建設、東急建設らが施工を担当した。信号システムなどの整備は三井物産、東洋エンジニアリング、神戸製鋼所が行った。

MRT南北線ではフェーズ1に続き、ブランダランH1から市北部のカンプンバンダンまでのフェーズ2区間7・8キロの建設も円借款

開業式典①と自動改札機を通るジョコ大統領
（いずれもJICA提供）



で継続支援する。本邦技術活用条件（STEP）の適用案件として、土木工事業

分の国際競争入札が今後予定されている。